
大学教育学会ニュースレター

No.114 2020.5.14

一般社団法人大学教育学会 (Japan Association for College and University Education)

事務局：〒252-0231 神奈川県相模原市中央区相模原 2-8-20-204

TEL/FAX：(042) 707-8112

郵便振替口座：00210-9-102857 一般社団法人大学教育学会

E-mail: jacue.office@gmail.com URL: <http://www.daigakukyoiku-gakkai.org/>

第 42 回大会のオンライン開催について

2020 年 4 月 21 日

大学教育学会会長

山田礼子

大学教育学会第 42 回大会開催に当たりましては、会場校をお引き受けくださいました九州大学関係者の皆様方のご尽力により、九州大学伊都キャンパスで開催すべく順調に準備が進められてまいりました。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の拡大により状況が急変し、九州大学の施設をお借りして、全国から多くの会員を一堂に集めて大会を催すことが難しくなりました。学会では本年 3 月 24 日に執行役員会を開催して対策を検討し、その内容を同月 28 日の 2019 年度第 4 回理事会でさらに検討いたしました。その上で九州大学関係者と協議した結果、九州大学での大会開催を断念し、新たに第 42 回大会企画実行委員会を立ち上げ、オンラインで自主的に開催することといたしました。なお、今回のオンライン開催に関しまして九州大学には一切ご迷惑をおかけしないことになりましたので、そのことを確認させていただきます。

第 42 回大会でオンライン開催されるのは、「基調講演」「シンポジウム」そして「ラウンドテーブル」になります。「自由研究発表」についてはオンライン開催は実施致しません。自由研究発表に申し込まれた会員は要旨集原稿を提出し要旨集に収録されれば、発表が行われたものとして学会で認定いたします。また、ラウンドテーブルにつきましては、大会として実施時間帯を提供させていただきますので、ラウンドテーブル企画者の会員の皆さんが実施の有無を選択したうえで、実施を選択したラウンドテーブルのみが企画者の責任において実施されることとなります。ラウンドテーブル報告はオンライン実施の有無とは関係なく学会誌に投稿することができます。実施される各プログラムへの参加の仕方については、以下のプログラム概要の中でご説明いたします。今回の大会をオンライン開催するに当たり使用するシステムは Zoom ですので、ご承知おきください。

なお、大会開催中に行います事業報告会での報告内容についてはウェブサイト上でお知らせいたします。

また、要旨集は PDF 形式でのみ作成し、学会ウェブサイトからダウンロードできるようにいたします。

今回のオンライン開催は緊急事態に伴う措置であり、初めての試みですので会員の皆様にはご不便、ご迷惑をおかけすることがあるかもしれません。あらかじめお詫び申し上げます。そのため、今大会では参加される会員の皆様は全員の参加費を無料とし、参加申し込みをする必要はありません。ただし、プログラム毎に参加希望者は事前登録をお願いすることいたしました。事前登録は会員限定です。その仕方および各プログラムの参加に必要な URL のお渡し方法は、別途ご連絡をいたします。

ただし、事前登録して URL を入手するためには、学会ウェブサイトの会員ページに登録済みの学会 ID と PW でアクセスする必要があります。登録が始まる前に学会ウェブサイトにアクセスして会員ページにログインできるかどうか確認しておいてください。

事態は刻々と変化しつつあります。ニュースレター掲載のプログラムも今後変更される可能性のあることもご承知おきください。PDF 要旨集には実施されるラウンドテーブルを含めて最新情報を掲載します。要旨集のダウンロードについては、改めて事務局からの一斉メール等でご連絡いたします。

以上、よろしくお願いたします。

大学教育学会第42回大会を開催するにあたって

統一テーマ:「未来に挑戦する大学」

大学教育学会第42回大会(2020年)

大会企画実行委員長 夏目達也(本学会常務理事)

大学教育学会第42回大会は、新型コロナウイルス感染症の拡大、政府による緊急事態宣言発令という異例の困難な状況の中で、オンラインで開催することになりました。世界が新たな感染症のパンデミックに苦しむ中、それを克服し、世界の秩序を発展させ、人類の平和と繁栄に寄与する学問文化を発信する大学の責務の重さを、改めて痛感いたします。その中で、大学を取り囲む社会状況や諸課題は、日々大きく変化し、多様性、複雑性、曖昧性、重層性を増し、今回の感染症との闘いにもみられる通り、従来の狭い専門的知識や方法論では問題発見・解決が困難です。こうした状況を乗り越え、未来社会を切り開いていくためには、縦横無尽に越境する自由な発想を持ち、全体を俯瞰する視点から多様な知や方法論を自らの主体性に関係づけ、異分野・異文化の人々との相互尊重関係を築き、創造的対話を繰り返しながら問題発見・解決していく前進力と独創性を兼ね備えた人材の育成が不可欠です。我々に課せられた大学教育の重要な使命はまさにここに 있습니다。その認識のもとに、本大会では、統一テーマとして、「未来に挑戦する大学」を掲げました。本大会では、「未来に挑戦する大学とはどうあるべきか、その実現には何が必要か」といった問いを立て、皆さんと共に考え、議論する場を企画しました。

1日目には、基調講演者として石井洋二郎中部大学教授をお迎えし、「未来に挑戦する学生を育む大学教育—21世紀のリベラルアーツ(仮)」について、講演していただきます。石井先生は、P.ブルデュの『ディスタンクシオン』(1990年、藤原書店)の翻訳でも著名であり、また多くの著作をお持ちのフランス文学者でいらっしゃいます。東京大学教養学部長、同大学教育担当理事・副学長を歴任されており、大学教育、教養教育、リベラルアーツ教育にも造詣が深く、東京大学での教養教育の実践を活字にされた『大人になるリベラルアーツ:思考演習12題』(藤垣裕子先生と共著)[2016年、東京大学出版会]や『危機に立つ東大-入試制度改革をめぐる葛藤と迷走』(2020年、ちくま新書)といったご著書でも知られ、ご経験に基づく優れた洞察力の基に、大学教育のあるべき姿について本質的な問題提起をされています。

2日目午後に行われるシンポジウム「未来に挑戦する大学を育てる教育環境整備」では、3名のシンポジストからの提言があります。松下佳代氏(京都大学)には正課を通じた学生の能力獲得(学習成果)について話して頂きます。続いて、和栗百恵氏(福岡女子大学)には準正課および正課外の活動を通じた学生の成長について話して頂きます。更に、熊野正樹氏(九州大学)からは、社会とのつながりを強く持つ正課外活動と大学教育との関係性から見える学生の成長について、お話し頂きます。コーディネーターは、川島啓二氏(京都産業大学)にお願いし、各報告に対するコメントを頂くほか、テーマに沿った議論を彫琢していただきます。オンラインでの開催のため各所からご視聴ご参加くださる会員の皆さんからのご意見を十分に取り上げることが出来ないかもしれませんが、できる限り皆様と議論を深めていきたいと思っております。

自由研究発表は要旨集収録をもって発表に代えさせていただきます。要旨集の内容をご覧になり、会員間で研究交流を行っていただければと思います。

ラウンドテーブルは大会としては時間帯を提供するだけで、実施はそれぞれのラウンドテーブルの自主的判断にお任せすることといたしました。こちら会員同士の自主的研究交流の場とさせていただきます。

本大会は十分な形で開催することが出来なくなり、ご不便をおかけいたしますが、このような状況下にありますとも、これらを機に学会員の皆様の研究交流がますます盛んになりますよう、心から期待してやみません。

大学教育学会第 42 回大会（2020 年）

最新の開催情報については、学会からの連絡、学会ウェブサイトの告知をご確認ください。

参加希望者の事前登録にはID、PWが必要です。ログイン可能かを事前にご確認ください。

開催期日および形式

期 日： 2020（令和2）年6月6日 [土]、6月7日 [日]

形 式： オンライン開催

関連行事：6月5日 [金]

13:00-16:00 理事会

16:30-18:00 定時代議員総会

形 式： オンライン開催

進行の詳細

以下のプログラムに参加するためには、別途ご連絡する期日までに学会ウェブサイトから参加希望のプログラムの事前登録をお願いいたします。後日送付される当該プログラムのURLに実施当日にアクセスしてください。自動的にZoomソフトがダウンロードされてラウンドテーブルヴァーチャル会場に入ることができます。再配信はいたしませんので、プログラムにある日時でしか参加することはできません。「開会挨拶」「基調講演」「閉会挨拶」では一般参加者は発言ができません。「シンポジウム」ではチャットでの質問ができます。「ラウンドテーブル」では参加者も発言や何らかの形での意見表明ができます。

【注意】プログラムURLは学会員限定で配布されるものです。URLの外部漏洩は思わぬ事態を引き起こす危険があります。入手したURLは決して他者に公開しないでください。

また、すべてのプログラムの参加者による録画・録音を禁止致します。厳守をお願いいたします。

6月6日（土）

10：00～12：00 ラウンドテーブル①

ラウンドテーブルは以下のラウンドテーブル・リストの中からオンライン開催が可能なものが実施されます。それぞれのラウンドテーブルはラウンドテーブル①と②のどちらか1回の開催ですが、参加者はあわせて2つのラウンドテーブルに参加できます。①で行うラウンドテーブルは要旨集でお知らせいたします。

13：45～14：00 開会挨拶（山田礼子大学教育学会会長）

14：00～15：30 基調講演

演 題：未来に挑戦する学生を育む大学教育-21世紀のリベラルアーツ（仮題）

講 師：石井洋二郎氏（中部大学教授、東京大学名誉教授）

概 要：1991年のいわゆる「大学設置基準の大綱化」により、それまでの「人文・社会・自然・外国語・体育」という教養教育の枠組みが外れ、全国の大学の教養部は軒並み解体・再編された。しかしその後も教養教育の重要性は減少するどころか、むしろ増大する一方である。各大学はこの20数年、新たな教養教育のあり方を模索し、カリキュラムの再編成と、これを担う組織の

整備に腐心してきた。東京大学は「教養学部」を堅持し、全学部の協力のもとに文系・理系にまたがる2年間の前期課程教育を再構築してきたが、その中で数年前からクローズアップされてきたのが、専門学部に進学してからの教養教育、いわゆる「後期リベラルアーツ教育」の必要性である。あらゆる社会的課題が単一の学問分野では対応できない多面性・複合性を帯びつつある現在、自分の専門分野を基盤としながらも、どのようにして異分野の知見を吸収し、他分野との連携を図っていくかという視点は、未来に挑戦する学生を育むこれからの大学教育にとって欠かすことができない。それは学部段階だけでなく、大学院についても同様である。本講演では、東京大学の試みを紹介しつつ、新しい「21世紀のリベラルアーツ」教育のあり方について考えてみたい。

司 会：夏目達也氏（名古屋大学、本大会企画実行委員会委員長）

6月7日（日）

10：00～12：00 ラウンドテーブル②

ラウンドテーブルは以下のラウンドテーブル・リストの中からオンライン開催が可能なものが実施されます。それぞれのラウンドテーブルはラウンドテーブル①と②のどちらか1回の開催ですが、参加者はあわせて2つのラウンドテーブルに参加できます。②で行うラウンドテーブルは要旨集でお知らせいたします。

14：00～16：00 シンポジウム

テーマ：未来に挑戦する学生を育てる教育環境整備

概要：学習成果の把握は高等教育における主要なトピックの一つとなっている。そこでは大学教育の結果としての学習成果のみならず、学生の学びや学生支援のプロセスの構築にも焦点があてられるものである。そのため、学生中心の教育への転換を図る中で、学生が何を経験しどのように成長していくのか、また学生の成長を促進するために大学は何を提供しどのように教育環境を整備していけばよいのか、という点に対し議論を深め実践を行っていく必要がある。キャンパスでは学生が正課のカリキュラムを通じて学業を遂行し学問的規範を習得しつつ、準正課や正課外の活動を通して、教職員や学友との交流により態度や信念を形成し共有する。そのためにも学生が積極的に参画できる教育環境整備が必要なのではないかと考える。そこで、本シンポジウムでは、学生の積極的な参画をどのように促し、どのような能力獲得を期待するのかといった観点から、①正課を通じた学生の能力獲得（学習成果）、②準正課および正課外の活動を通じた学生の成長、③社会とのつながりを強く持つ正課外活動と大学教育との関係性から見える学生の成長、の三つの観点からアプローチし三者の連携を通じた展望と課題について議論を深めたい。

シンポジスト

①の観点から：松下佳代氏（京都大学教授）

②の観点から：和栗百恵氏（福岡女子大学准教授）

③の観点から：熊野正樹氏（九州大学准教授）

コーディネーター：川島啓二氏（京都産業大学教授、第42回大会企画実行委員会委員）

司 会：小湊卓夫氏（九州大学准教授、第42回大会企画実行委員会事務局次長）

16：00～16：10 閉会挨拶（松下佳代大学教育学会副会長）

ラウンドテーブル

ラウンドテーブルは、ラウンドテーブル①とラウンドテーブル②のいずれかで開催予定です。その振り分けは後日要旨集などでお知らせいたします。

テーブル1 運動部学生のデュアルキャリア教育を考える～学業とスポーツの両立を支える仕組みづくり～

企画者：長倉富貴（山梨学院大学）、江原昭博（関西学院大学）、工藤俊郎（大阪体育大学）

趣旨：本RTでは大学スポーツ協会（UNIVAS）のデュアルキャリア事業の取り組みについて長倉富貴（山梨学院大学）より情報提供を行い、大学における運動部学生の特徴についてIRの立場からの分析を関西学院大学の江原昭博より紹介する。また、現場における事例として大阪体育大学の工藤俊郎が運動部学生への学習支援の実情を紹介する。本企画は、これまでのRT企画「学生アスリートのライフスキルと学業・学習支援」（2013年）、「運動部学生の学業支援」（2019年）等、毎年「運動部学生の支援」をテーマに企画をしてきた。今年も参加者同士の情報交換、意見交換の時間をしっかりと確保し各大学現場に活かしていただけることを目指している。

テーブル2 学生の目を輝かせる大学教育の可能性Ⅷー楽しく対話すれば学生はどう成長する？ー

企画者：高橋真義（桜美林大学）、橋本勝（富山大学）、杉原亨（関東学院大学）、中村拓昭（九州産業大学）、十河功一（九州女子大学）、郷原正好（国立情報学研究所）、菊地勇次（筑波大学）、柳生修二（総合研究大学院大学）、米田敬子（文教大学生生活科学研究所）

趣旨：これまで、学生の目が輝く大学教育の可能性を探るため、大学教員・職員・学生と共に、事例を共有し、参加者と多面的に議論してきた。2017年と2018年は、「主体的・対話的で深い学び」についての「見える化」、「深い学び」を副題とした。2020年度は、「対話的」に言及する。新学習指導要領ではアクティブラーニングを「主体的、対話的で深い学び」と言い換えているが、なぜそこに「対話的」が盛り込まれているのか。また、そこで念頭に置かれている「対話」とはどのようなものなのか。大学生の真の知的成長につながる「対話力」のありようについて、それこそ楽しく対話しながら考える。

テーブル3 教員の働き方改革にみる大学の危機

企画者：夏目達也（名古屋大学）、山田礼子（同志社大学）、大森不二雄（東北大学）、渡辺達雄（金沢大学）

趣旨：大学教員の多忙化は国際的趨勢であり、背景には高等教育の拡大と学生の多様化、研究成果をめぐる国際的競争の激化、政府や産業界が大学に求める社会的要請の高まりなどがある。近年、教員の雇用形態や労働条件の変化により大学教授職の内実も多様化している。社会的要請が高度化・多様化する中で、これに答え得る教育・研究・社会貢献等の機能を、大学が十全に果たせないという課題も現出し始めている。本ラウンドテーブルでは、日本を念頭に置きつつ、各国の大学教員の状況に関する報告・共有を行い、国際比較の視座から大学教員の「働き方」について考察する。

テーブル4 初年次教育への組織開発的アプローチとその成果～いかにモチベーションに働きかけるのか～

企画者：川崎弘也（株式会社ラーニングバリュー）、本田直也（大手前大学）、加藤みどり（東京経済大学）、高松邦彦（神戸常磐大学）、日置和人（神戸学院大学）

趣旨：高校生の大学進学率の上昇とともに、学習歴や入学動機の多様な学生が入学するようになってきた昨今、学生の学びへの動機付けが、大学教育の一つの大きなテーマとなっている。このラウンドテーブルでは、教育のコンテンツやツールではなく、教育の場における学生間の関係性や教員と学生間の関係性に着目し、その活性化を促すことで学生の学びのモチベーションを高める組織開発的なアプローチの実践事例を共有したい。複数の大学における、特に初年次教育や導入教育での実践事例を通じて、同様のことを再現するときに、何がキーファクターとなり、教員の役割は何なのか、課題は何なのかなど、フロアの皆さんと意見交換する場としたい。

テーブル5 保健医療福祉系大学における教養教育の問題(11) - 教養教育の職業的レリバンス

企画者：志水幸（北海道医療大学）、宮本雅央（青森県立保健大学）、遠藤良（岩手県立大学）、小関久恵（東北公益文科大学）、町田修三（高崎健康福祉大学）、森元拓（山梨大学）、山下匡将（名古屋学院大学）、小野滋男（北海道医療大学・故人）

趣旨：本ラウンドテーブルでは、これまで10年にわたり当該課題について検討を深めてきた。その主題は、教養教育と専門教育との接続、人文社会系教養の意義（コアカリキュラムにおける教養教育の意義や専門教育の危機と教養教育の意義、専門職養成における意義等）、多ルート問題と大学教育の独立性、教養教育の専門性、国際化と日本の特質（Disciplineの越境を含む）であった。この間、保健医療福祉系専門職に期待される役割も変化し、多職種連携や地域連携に象徴される専門性の越境による協働が求められている。本ラウンドテーブルでは、新たな10年間を構想し”専門性の越境と協働”の時代における教養教育の職業的レリバンスについて議論したい。

テーブル6 未来の教養教育の授業デザインと開発—ABC学習モデルを使った文理融合型探究科目開発ワークショップの体験—

企画者：佐藤浩章（大阪大学）、田中孝平（京都大学大学院）、加藤満徳（株式会社Z会ソリューションズ）、尾澤重知（早稲田大学）、山内洋（大正大学）、榊原暢久（芝浦工業大学）、梅村修（追手門学院大学）、根岸千悠（大阪大学）

趣旨：高校における探究学習の普及に伴い、大学初年次段階において探究学習を導入する大学が始めている。また社会に対応する人材育成のために文理融合型カリキュラムを導入する大学もある。本RTでは、探究型かつ文理融合型の教養教育の授業をデザインする実践的な方法を提起する。まず、大学における探究学習の定義や類型についての理論を紹介した上で、実際に使用されているシラバス・教材・評価テストの事例を紹介する。その上で、参加者には、ロンドン大学で開発されたABC学習モデルを使った文理融合型探究科目開発ワークショップを体験してもらう。参加者は自大学で展開する際に活用できる教材セットを入手できる。

テーブル7 アカデミック・アドバイジングを追究する—成績中間層の学生をターゲットにして

企画者：岸岡奈津子（立命館大学）、清水栄子（追手門学院大学）、御厨まり子（明星大学）、山崎めぐみ（創価大学）

趣旨：アカデミック・アドバイジングの対象は、初年次から卒業年次の全ての学生である。これまでのラウンドテーブルの議論から、実際には単位修得に躓いた学生、大学生活への困り感を持つ学生等が主な対象であることが明らかになった。さらに、成績中間層の学生には大学として積極的な働きかけが少ないという課題も見えてきた。表面的には問題なく学生生活を過ごしているが、成長意欲の喪失や浅い内省などにより主体的に行動できないのが成績中間層の特徴である。本ラウンドテーブルでは、将来像（キャリア）から逆算した大学生経験への有効なアドバイジングを検討するとともに、アドバイジングのミッションである「学生の成功」について考察する。

テーブル8 一般教育の知的遺産を活かす（その12）

企画者：志津木敦（日本大学）、杉本孝作（四国学院大学）、小山悦司（倉敷芸術科学大学）、塩沢一平（二松學舎大学）、深野政之（大阪府立大学）、亀倉正彦（名古屋商科大学）、椿田貴史（名古屋商科大学）、加藤雄大（日本大学大学院）

趣旨：「欠如態の思想」は、自己を照らし合わせる姿勢に着目した一般教育思想です。部分から全体への接近、およびその方法は、カリキュラム統合を媒介にした研究と教育の関係です。創造的な学識への探究を意識した一般教育思想ともいってもよいものがあります。しかし「欠如態の思想」において満たしていくものは何か。（その12）では、大学改革・大学教育改革と

ともに課題になってきた知識の教育、その際に不可欠な教育学と他の専攻領域の協力関係の観点から考えてみたいと思います。多くの先生方のご参加をお待ちしています。

テーブル9 メタ認知の育成と評価の課題

企画者：山地弘起（大学入試センター）、丹羽量久（長崎大学）、金西計英（徳島大学）、橋本優花里（長崎県立大学）

趣旨：本ラウンドテーブルでは、大学生の自立的な学習活動を促進するうえで鍵概念となるメタ認知に着目し、その育成と評価の今日的課題を3つの事例報告を通して探る。事例の内容は、まず長崎県立大学の初年次教育におけるメタ認知学習の工夫、次いで長崎大学を中心に行われているMetacognitive Awareness Inventory (MAI; Schraw & Dennison, 1994)の邦訳と改善の試み、そして徳島大学におけるアクティブラーニング評価でのMAIの活用である。これらの報告を踏まえて、比較的共通にみられるメタ認知機能の育成課題を明確化するとともに、その評価測度のあり方についても課題を整理したい。

テーブル10 【課題研究】アクティブラーニングを支援する学生アドバイザーの制度・研修・効果に関する実践枠組みの提案

企画者：杉森公一（金沢大学）、田尻慎太郎（北陸大学）、宮本知加子（福岡工業大学）、三浦真琴（関西大学）、河内真美（金沢大学）、堀井祐介（金沢大学）、山本啓一（北陸大学）

趣旨：アクティブラーニング型授業におけるTA（大学院生）・SA（学部生以上）の役割を「学生アドバイザー」と置き、学部生を含めたピアの学修支援を実現する、制度・研修・活動・効果を実証的に研究する。学生アドバイザーは、個別の大学が個別に取り組んでいるが、制度として組織的に効果的に位置づけられるならば、その養成を個々の教員・取組みにとどめることなく、授業の受講学生の教育・学修の質の向上をともに図ることを可能とすることが期待される。学生アドバイザー制度運営者向けの調査設計と結果、本課題研究での報告をもとに、LA制度・研修枠組みを提案し、参加者とともにフロア討論する。

テーブル11 大学経営人材育成における大学院教育の役割

企画者：福留東士（東京大学）、栗原郁太（津田塾大学）、水野（林）貴子（東京大学）、井芹俊太郎（法政大学）、寺崎昌男（立教大学・桜美林大学（名誉））

趣旨：表題のテーマが議論されるようになって20年ほどが経つ。種々議論が行われてきたが、高等教育分野の大学院がいかなる役割を果たし、いかなる内容を教えるべきか、学術的にも実践的にもさらに深い議論が必要である。東京大学大学院大学経営・政策コースでは数年間、修了生の経験を共有する取組を継続的に進めてきた。本企画では、これらの取組を振り返りつつ、大学経営人材育成における大学院の役割を、その内実に踏み込んで議論したい。登壇者は同コースの教員、修了生であるが、議論をコース関係者に閉じる意図はなく、様々な立場からテーマに関心を持つ人々の意見交換の場としたい。他大学のプログラムで学んだ人々にも広く参加してもらいたい。

テーブル12 学士課程カリキュラムの研究：必修単位数の規定要因を探る

企画者：串本剛（東北大学）、杉谷祐美子（青山学院大学）、中島夏子（東北工業大学）、鳥居明子（立命館大学）

趣旨：本ラウンドテーブルの目的は、学士課程カリキュラムの研究の一環として必修単位数（必修科目単位数／要卒単位数）に注目し、その規定要因分析の結果と解釈を対象に、参加者と議論を深めることである。必修単位数の規定要因としては、入学者の学力、学生数、学生の進路の3つを想定し、今回は人文科学系、理学系、教育系、スポーツ系の各プログラムに関して、分析結果とその解釈を報告する。上記専門分野の教育に携わる関係者に多数参加いただき、分析の枠組みと結果解釈の妥当性について、忌憚のないご意見をいただきたい。

テーブル13 SoTLに取り組む — 個人、組織の視点から—

企画者：井上史子（帝京大学）、安岡高志（帝京大学）、大山牧子（大阪大学）、川越明日香（熊本大学）

趣 旨：日本においてSoTL(Scholarship of Teaching and Learning)の概念や意義はおもにFDの文脈で語られることが多い。ボイヤーが提唱した大学教授職の4つの学識のうち「教授(teaching)」の学識を深めることが授業改善に繋がるとの期待がそこにあると思われる。では大学教員による教育研究はどのように授業改善に繋がるのであろうか。授業改善以外にSoTLに取り組む教員に何か期待されるものはあるのだろうか。本ラウンドテーブルでは、日本の大学においてSoTLを進める上でどのような方策や支援が効果的であるのか、大学授業を対象とした教育研究を行う際に考慮すべき問題等、SoTLを実践的に導入する上での意義や課題について参加者も交えた検討を行う。

テーブル14 デザイン思考の手法と実践

企画者：吉永契一郎（金沢大学）、細川敏幸（北海道大学）、鈴木久男（北海道大学）、斉藤準（帯広畜産大学）

趣 旨：知識基盤社会における価値創造と関連して、大学教育においても、デザイン思考のプロジェクト・ベースド・ラーニング(PBL)が広がっています。しかしながら、現段階では、デザイン思考の目的が、汎用能力の育成にとどまり、学士課程教育全般への影響は限定的です。これには、デザイン思考が、教員が想定している、積み上げ型の専門教育や狭い専門領域でのオリジナリティの追求と逆の手法であること、教員自身が学生の主体性を重視するコーチングに慣れていないことが考えられます。このラウンドテーブルでは、スタンフォード大学d.schoolにおけるワークショップを参考に、これらの課題にどう取り組めばよいかを議論します。

テーブル15 AP事業成果に基づく「教学マネジメント指針」への挑戦

企画者：大上浩（東京都市大学）、河本達毅（文部科学省）、中村信次（日本福祉大学）、椋平淳（大阪工業大学）

趣 旨：文部科学省AP事業テーマV「卒業時における質保証の取組の強化」選定校は、4年間の補助期間を終えた2020年度から、これまでに構築した質保証制度の実効的運用と発展に自立的に取り組む段階を迎えている。整合的な三つの方針に基づく教育課程の再編や、学修成果の可視化、教職協働による内部質保証の促進、社会連携の強化など、各校が一定の成果を上げてきた教育改革の中核は、中教審が先般公表した「教学マネジメント指針」に引き継がれている。テーマV選定校がその成果を土台に「指針」に対してどのように挑み、そして息吹を注ぎ込むのか — その方策を検討・展望することにより、今後の高等教育の道標たる「指針」自体の可能性を探る。

テーブル16 大学教養体育の新しい授業デザイン

企画者：平工志穂（東京女子大学）、小林勝法（文教大学）、北村勝朗（日本大学）、中村正剛（別府大学短期大学部）、田原亮二（西南学院大学）、木内敦詞（筑波大学）

趣 旨：1991年に大学設置基準が大綱化されたが、それ以降、大学教養体育の授業やカリキュラムは大きく進化してきた。各大学の建学の精神などに基づき、時代と社会の要請や高等教育学の進歩に合わせて、様々な取り組みがされている。そこで、本ラウンドテーブルでは、「STEAM教育との連携」や「社会人基礎力の向上」、「ICTの活用による主体性の伸展」、「コミュニケーションスキルの向上」などを目指した新しい授業デザインによる授業事例をもとにその可能性や課題について議論する。

テーブル17 現代の学生寮における改革動向とその教育的意義

企画者：安部有紀子（大阪大学）、蝶慎一（広島大学）、日暮トモ子（目白大学）、松村希世子（横浜国立大学）、望月由起（日本大学）

趣 旨：近年、大学の学寮において教育的プログラムの開発が米国、アジア、欧州諸国へと急速に

拡大している。本ラウンドテーブルでは、従来、学生の生活・経済支援策として捉えられてきた日本の学生寮の今後のあり方を議論するために、日本と海外の大学の学生寮の最新の状況を整理したうえで、世界的な潮流としての近年の学寮改革の特徴や、学寮が各国の大学文化や生活スタイルの影響をどのように受けているのか等を議論していく。このラウンドテーブルを通じて、日本の大学における学寮の教育的意義をフロアと一緒に改めて深めていく。

テーブル18 学士課程における研究体験の教育的意義を再考する

企画者：田中岳（東京工業大学）、田尾周一郎（九州大学）、宮浦崇（九州工業大学）、新谷恭明（西南女学院大学）

趣旨：卒業論文・卒業研究を学士課程教育の総仕上げ科目として配置する大学は多い。また、その準備として低年次に学生が研究体験を行う科目を開設している事例もある。一方で、卒業論文・卒業研究を必修としない大学も散見される。一般教育学会誌で関が「卒業研究や卒業論文は、学界における学問研究の水準とは比較すべくもあるまいが、学問研究の追体験、原体験を保障しうる可能性を有している」としたのは1982年のことである。本RTでは、学生が研究を体験することが学士課程教育を統合していく過程として重要であるとの視点に立って、その教育的意義について再考したい。

テーブル19 大学教育における質的研究の多様な展開

企画者：山田嘉徳（大阪産業大学）、上嶋洋佑（新潟大学）、森朋子（桐蔭横浜大学）、山咲博昭（広島市立大学）、谷美奈（帝塚山大学）、山路茜（立教大学）、西野毅朗（京都橘大学）、服部憲児（京都大学）

趣旨：本RTは大学教育における質的研究の可能性や課題について、多様な研究事例を題材に取り上げながら考えることを目的とするものである。大学教育を対象に質的にアプローチするからこそ見出される研究知見の様々な意義や有用性について、研究の実際も踏まえて議論する。本RTは、「研究パート」、「Making of パート」、「全体討議」の3部構成で展開する。研究パートでは大学教育を対象とする質的研究の概要について報告する。Making of パートでは研究をまとめる際の困難や工夫した点など、方法論にも通じる議論のポイントを整理し、提示する。全体討議では提示された論点に沿って、大学教育における質的研究の可能性を参加者ととともに議論する。

テーブル20 教学マネジメントとIRをつなぐ組織体制づくりを考える

企画者：藤木清（関西国際大学）、濱名篤（関西国際大学）、林透（山口大学）、望月雅光（創価大学）
荒木俊博（淑徳大学）

趣旨：3ポリシーのガイドライン策定以降、ディプロマ・ポリシー（DP）に基づく教学マネジメントの確立を求める動きが加速し、本年1月には「教学マネジメント指針」が公表されるに至った。多くの大学では、学修成果をどのように可視化するのか、また、その情報をIRデータとしてどのように教育改善等に活用していくのかといった点で苦労と疲労が続いている。本ラウンドテーブルでは、そんな切実な課題である「教学マネジメントとIRをつなぐための組織のあり方」や「職員と執行部、教員管理職との役割分担や連携において生じる課題」に焦点を当てたパネルディスカッションを繰り広げながら、フロアとともに課題解決のためのヒントを紡ぎ出したい。

テーブル21 【課題研究】大学教員の「エキスパート・ジャッジメントの涵養」と大学組織の「学修システム・パラダイムへの転換」ー大学組織変容のメカニズム

企画者：深堀聰子（九州大学）、松下佳代（京都大学）、伊藤通子（東京都市大学）、中島英博（名古屋大学）、佐藤万知（京都大学）、田中一孝（桜美林大学）、畑野快（大阪府立大学）、斎藤有吾（新潟大学）、長沼祥太郎（九州大学）

趣旨：大学教育の学修目標の達成度を可視化することへの社会的要請の高まりに応じて、学位プロ

グラム・レベルの抽象的な学修目標を課題、テスト問題、ルーブリック等のアセスメント・ツールにおいて具体化する取組が、米国・欧州・日本で同時展開している。本研究では、大学教員の変容（エキスパート・ジャッジメントの涵養）を基盤として、大学組織はいかに変容（学習システム・パラダイムへの転換）し得るのかという課題を追究する。2019年度には、前年度の基礎研究を踏まえて、概念整理と研究枠組みを精緻化した。本ラウンドテーブルでは、その研究枠組みに基づいて進めている調査研究の成果と課題を整理し、2020年度の活動を展望する。

自由研究発表（○は登壇者）

自由研究発表はオンライン開催がございません。発表内容については、要旨集 PDF 版をご覧ください。要旨集のダウンロードにつきましては会員一斉メールなどでお知らせいたします。なお、個別の自由研究発表に関してご質問や資料の要望などがございましたら、各自の責任で発表者と連絡をお取りください。

部会 1 学士課程教育(1)

人文学系学部におけるディプロマ・ポリシーの構造の類型化

○上月翔太（愛媛大学）

DP 達成のためのカリキュラム・マネジメント及び学修成果アセスメントの実態に関する考察

○大関智史（旭川医科大学）、林透（山口大学）、深野政之（大阪府立大学）、山崎慎一（桜美林大学）、斎藤有吾（新潟大学）

大学の共通教育の現状と将来：3つのポリシーと現場、そしてFD

○清水亮（神戸学院大学）

教員のディプロマ・ポリシーに関する意識調査

○河井正隆（明治国際医療大学）

現代日本における学士課程カリキュラムの共通性 —大学入試時の偏差値に着目して

○葛城浩一（香川大学）、宇田響（くらしき作陽大学）

部会 2 学士課程教育(2)

医療系学生のリーディング・スキルを測定するためのテストの開発と活用

○斎藤有吾（新潟大学）、平山朋子（藍野大学）

社会的技量ルーブリックの縦断的活用に関する一考察

○土井義夫（朝日大学）、林卓史（朝日大学、非会員）、櫻木晋一（朝日大学、非会員）、西野毅朗（京都橘大学）

プログラムレベルの学習成果の評価としての OSCE-R の有効性の検討

○平山朋子（藍野大学）、斎藤有吾（新潟大学）、松下佳代（京都大学）

授業の履修動機と学び・キャリアとの関連—短期大学の事例—

○大野真理子（京都大学大学院）、溝口侑（京都大学大学院）、小山理子（京都光華女子大学短期大学部）

大阪府立大学におけるAP事業の成果と課題

○畑野快（大阪府立大学）、上垣友香理（大阪府立大学、非会員）、西田悠輔（大阪府立大学、非会員）、星野聡孝（大阪府立大学）、高橋哲也（大阪府立大学）

部会 3 学士課程教育(3)

大学生の学習行動の変容—大学初年次からのパネル調査(7年目)—

○稲垣太一（金城学院高等学校）

ゼミナール教育における学びの実態調査

○西野毅朗（京都橘大学）

日本におけるリカレント教育の可能性 —アメリカの Competency Based Education を手がかりに—

○塚原修一（関西国際大学）、濱名篤（関西国際大学）

専門教育で身につけた問題解決能力は汎用的でありえるか

○小野和宏（新潟大学）、松下佳代（京都大学）、斎藤有吾（新潟大学）

部会 4 学士課程教育（4）

学士課程における学位の英語表記形式の多様性 —29 年度調査に見る学問分野と大学の属性による傾向とその示唆—

○高橋望（琉球大学）、森利枝（大学改革支援・学位授与機構）

卒業生の就職先アンケートを通じたカリキュラム構築と学習効果の測定

○石井貴春（ビジネス・ブレークスルー大学）

アメリカの学士課程における専攻選択プロセスとその支援

○福留東土（東京大学）

地域人材育成プログラムの開発・運営・成果に関する総括的考察 ～やまぐち未来創生人材(YFL)育成プログラムの実践を通して～

○林 透（山口大学）

部会 5 英語・日本語の教育

英語科目における習熟度別クラス編成方法の改善:スキル別習熟度を考慮したクラス編成の試み

○西出崇（小樽商科大学）、近藤睦美（京都外国語大学、非会員）、吉田真美（京都外国語大学、非会員）、坂本季詩雄（京都外国語大学、非会員）

英語(中級)教育における履修学生の資質とモチベーション

○長沢誠（埼玉大学）

音韻情報処理からアプローチする日本語リテラシー育成の試み

○吉田友昭（藤田医科大学）

初年次の日本語科目における読書教育

○脇田里子（同志社大学）

部会 6 学生支援（1）

自律的学習に資する履修計画支援プログラムの検証

○五島譲司（新潟大学）、中東雅樹（新潟大学、非会員）

学生支援につながる教職協働

○深尾暁子（国際基督教大学）○島崎弓子（国際基督教大学）

海軍兵学校は教養を担ったか

○加藤恒男

学生アスリートの内定状況に学業と競技成績が及ぼす影響

山梨学院大学学習・教育開発センター（○石川勝彦）、東原文郎（京都先端科学技術大学、非会員）、舟橋弘晃（早稲田大学、非会員）、横田匡俊（日本体育大学、非会員）、澤井和彦（明治大学、非会員）、長倉富貴（山梨学院大学）

短期大学卒業生調査(試行版)の結果と協力校聞き取り調査から見えた課題

○堺 完（大分大学）、○宮里翔大（桜美林大学大学院）、山崎慎一（桜美林大学）、黄海玉（短期大学基準協会）

部会 7 教職員の能力開発（1）

日常的教育実践に対する新任教員研修の効果

○吉田博（徳島大学）、塩川奈々美（徳島大学、非会員）、川野卓二（徳島大学）、上岡麻衣子（徳島大学）

「ゼミ研究会」の活動成果とFDとしての活動の価値

○古賀暁彦（産業能率大学）、杉原麻美（淑徳大学、非会員）、馬渡一浩（文京学院大学、非会員）、前田純弘（昭和女子大学、非会員）、山重芳子（成城大学・非会員）、豊田義博（ライフシフト・ジャパン株式会社、非会員）

教員へのヒアリング分析による初年次教育を支える学習補助者に求められる能力の分類

○岩崎千晶（関西大学）

大学教授職における役割の多様化と細分化－大学教員イメージ調査にみる大卒者の認識から－

○丸山和昭（名古屋大学）、佐藤万知（京都大学）、杉原真晃（聖心女子大学）、立石慎治（筑波大学）

部会 8 教職員の能力開発（2）

大学教員の授業力向上に向けた取り組み: アクティブ・ラーニングに関するハンドブックの作成－

○前田ひとみ（目白大学）○峯村恒平（目白大学）、西山里利（目白大学、非会員）、田口侑果（目白大学、非会員）、矢野秀典（目白大学、非会員）

ストーリーテリング手法を使った動画 FD 教材の開発とその活用方法－関西地区 FD 連絡協議会「大学の授業を極める」シリーズを事例に－

○佐藤浩章（大阪大学）、近田政博（神戸大学）、杉田郁代（高知大学）、浦田悠（大阪大学、非会員）

大学教育におけるクラス担任制度の効果と課題

○杉田郁代（高知大学）

大学教員が抱く授業観の構造の検討

○山田嘉徳（大阪産業大学）、米満潔（佐賀大学、非会員）、○関田一彦（創価大学）

演奏教師のための「草の根FD(レッスン改善)プロジェクト」についての考察

○中西千春（国立音楽大学）、本島阿佐子（国立音楽大学、非会員）

組織的教育改善支援を目的として導入された学修支援システムの利用状況の分析

○江本理恵（岩手大学）

部会 9 教育方法・教育改善（1）

当日 90 秒スピーチを用いる講義－当日ブリーフレポート方式と当日スピーチ

○宇田光（南山大学）

日本におけるカレッジ・インパクト理論の有効性の検証

○細川敏幸（北海道大学）、山田邦雅（北海道大学）、宮本淳（北海道大学）

教育改善に向けたカリキュラム・コンサルティング ～卒業予定者によるカリキュラム評価～

○秦敬治（岡山理科大学）、山口一裕（岡山理科大学、非会員）

地域連携活動の経験が与える長期学習者への影響－卒業生と 4 年生を対象としたアンケート結果にみる可能性－

○櫻井典子（新潟大学）、箕口秀夫（新潟大学、非会員）、松井賢二（新潟大学）、飯島康夫（新潟大学、非会員）

アントレプレナーシップ教育における Project-Based Learning (PBL) の効果と可能性: 九州大学ロバート・ファン / アントレプレナーシップ・センターにおける実践事例から

○松永正樹（九州大学）、芦澤美智子（横浜市立大学、非会員）、渡邊万里子（東京理科大学、非会員）

学生の自己評価の精度向上を目指した試み－ルーブリックのチューニングによる－考察－

○大塚みさ（実践女子大学短期大学部）、○三田薫（実践女子大学短期大学部）

部会 10 教育方法・教育改善（2）

所属研究室の研究倫理プログラム作成とインタラクティブ教材“The LAB”活用による研究倫理教育の改善

○西村秀雄（金沢工業大学）

協議ワーク後の自己評価の適切さがパフォーマンスの改善に与える影響: 教養科目「社会学」のレポート課題を事例として

○岩田貴帆 (京都大学大学院)

学生が初めて臨む介護実習のルーブリック評価の検証と今後

高田短期大学 (○鷺尾敦、福田洋子、野呂健一、寶來敬章)

ライフキャリア教育の場としてのゼミ・フィールドワーク: 効果とデザイン

○大森優 (神田外語大学)、清水由賀 (東北福祉大学、非会員)

カール・ワイマンの大学教育改革案

○吉永契一郎 (金沢大学)

部会 11 学士課程教育 (5)

大学生を対象とするコンピテンシー・ディクショナリーの課題

○二宮祐 (群馬大学)

学士課程教育における e ポートフォリオの活用とその評価

○山内一祥 (佐賀大学)、皆本晃弥 (佐賀大学)

e ポートフォリオと学生調査データを組み合わせて可視化した学生の学びのトラジェクトリ

○星野聡孝 (大阪府立大学)、畑野快 (大阪府立大学)、上垣友香理 (大阪府立大学、非会員)、西田悠輔 (大阪府立大学、非会員)、高橋哲也 (大阪府立大学)

大学における歴史教育の現状に関する予備的考察—文献レビューおよび歴史系科目担当者に対する調査を中心に—

○千葉美保子 (甲南大学)

グローバル・コンピテンシーの習得と学習経験—STEM 系と人文・社会科学系の日本人卒業生の比較から—

○竹永啓悟 (同志社大学大学院)、○山田礼子 (同志社大学)

グローバル・コンピテンシーの測定と IR の役割

○相原総一郎 (芝浦工業大学)、○吉久保肇子 (芝浦工業大学)、橘雅彦 (芝浦工業大学、非会員)

部会 12 ライティング

ライティングセンターにおける課題解決の推移—スポーツ推薦入試入学生のレポート課題を例に—

○多田泰紘 (関西大学)、岩崎千晶 (関西大学)、中澤務 (関西大学、非会員)

大学初年次教育におけるレポート作成スキルの向上を目標とした授業開発研究

○奈良雅之 (目白大学)、峯村恒平 (目白大学)、前田ひとみ (目白大学)

ライティングサイクルにさまざまな質問経験を組み込む試み

○佐藤広子 (創価大学)、鈴木道代 (創価大学、非会員)

ライティングルーブリックに対する学生の認識とレポート作成時の意識への影響

○遠海友紀 (東北学院大学)、嶋田みのり (東北学院大学)、稲垣忠 (東北学院大学、非会員)

高校探究学習科目におけるアカデミック・ライティング指導の高大接続による取り組み

○堀一成 (大阪大学)、柿澤寿信 (大阪大学、非会員)、金泓權 (大阪大学、非会員)、坂尻彰宏 (大阪大学、非会員)、進藤修一 (大阪大学、非会員)、吉本真代 (大阪大学)、和嶋雄一郎 (大阪大学)

編集履歴を利用した協働ライティングのプロセス分析の試み

○仙石昌也 (愛知医科大学)、宮本淳 (愛知医科大学)、久留友紀子 (愛知医科大学)、橋本貴宏 (愛知医科大学)、山森孝彦 (愛知医科大学)、山下敏史 (愛知医科大学、非会員)

部会 13 アクティブ・ラーニング

アクティブラーニング型授業による成長を可視化する自己モニタリングシート開発の試み

○佐瀬竜一 (常葉大学)、増井実子 (常葉大学、非会員)、谷誠司 (常葉大学、非会員)、安武伸朗 (常葉大学、非会員)、戸田裕司 (常葉大学、非会員)、柘植健一 (常葉大学、非会員)

多人数授業に導入したアクティブラーニングが学生を変容させる自己効力感

○三宅元子（名古屋女子大学）、白井靖敏（名古屋女子大学、非会員）

アクティブラーニング型授業への適応感に関する研究

○松尾美香（岡山理科大学）、○望月雅光（創価大学）

アクティブ・ラーニングによる実践的教養科目「大学教養実践」の導入

○伊藤譲（摂南大学）、石井三恵（摂南大学）、大塚正人（摂南大学、非会員）、荻田喜代一（摂南大学、非会員）、喜多大三（摂南大学、非会員）、久保貞也（摂南大学）、寺内睦博（摂南大学、非会員）、藤林真美（摂南大学、非会員）、柳沢学（摂南大学、非会員）、原由紀子（フューチャーファシリテーション、非会員）、上野山裕士（摂南大学）

アクティブ・ラーニングによる教養科目「大学教養入門」の実施効果

○久保貞也（摂南大学、非会員）、荻田喜代一（摂南大学）、○石井三恵（摂南大学）、伊藤譲（摂南大学）、柳沢学（摂南大学、非会員）、喜多大三（摂南大学、非会員）、大塚正人（摂南大学、非会員）、寺内睦博（摂南大学、非会員）、藤林真美（摂南大学、非会員）、水野武（摂南大学、非会員）、○上野山裕士（摂南大学）

中動態としてのアクティブ・ラーニング ～アクティブ・ラーニングの主語は誰なのか～

○三浦真琴（関西大学）

部会 14 教育方法・教育改善（3）

PBLにおける教員負担と教育効果の実態—藍野大学における1年目の調査—

○杉山芳生（京都大学大学院）、松下佳代（京都大学）

教室から開放されたオンラインの学び 教師から独立した授業ボランティアの学び

○筒井洋一（京都工芸繊維大学）

STEM教育とアクティブラーニング—物理基礎科目における実践と定量的評価

○斉藤準（帯広畜産大学）

養護教諭養成教育におけるケースメソッドによる学習効果

○三森寧子（千葉大学）

ケースメソッド教育を用いた授業における学生の発言数と学びの関連

○齋藤千景（埼玉大学）

LTD話し合い学習方法のミーティングによる学生の気づき

○嶋田みのり（東北学院大学）、遠海友紀（東北学院大学）、村上正行（大阪大学）

部会 15 高大接続

学生の学習観・学習行動特性と高大トランジションの検討

○山本以和子（京都工芸繊維大学）、○坂井裕紀（武蔵野学院大学）

高校の探究学習は大学の学びに発揮されるか—学生のインタビューデータのSCAT分析を通して—

○田中孝平（京都大学大学院）、松下佳代（京都大学）

正課併行型の学生主体活動から学生の成長を促進する要因分析

○田上正範（追手門学院大学）、清水栄子（追手門学院大学）

高等教育進学率をどのように改善していくのか～沖縄県の取り組み～

○濱名篤（関西国際大学）、○杉谷祐美子（青山学院大学）

英国の大学における二つのアドミッション・ポリシー

○沖清豪（早稲田大学）

部会 16 学生支援（2）

教育学の課題としての障害学生支援

○原田早春（慶応義塾大学大学院／新潟大学）

発達障害(ASD)学生の就労向上のための大学と就労支援事業所との連携の在り方と課題

○小川勤（静岡福祉大学）

アクセシビリティ支援室の現状と課題

○田実潔（北星学園大学）、田辺毅彦（北星学園大学、非会員）

Student Success を実現するための伴走支援の在り方に関する一考察 -立命館大学 Student Success Program 個別支援の事例から-

○木原宏子（立命館大学）、岸岡奈津子（立命館大学）、石田明菜（立命館大学、非会員）、渡邊あい子（立命館大学、非会員）

修学継続支援のための教学 IR 活用 -協調フィルタリングによる分析-

○村川弘城（日本福祉大学）、竹森崇人（株式会社メディアオーパスプラス、非会員）、笹川修（日本福祉大学、非会員）、石居一平（株式会社メディアオーパスプラス、非会員）、圓林真吾（株式会社メディアオーパスプラス、非会員）、中村信次（日本福祉大学）

発達障害のある大学生の時間管理を支援するアプリケーションの開発に向けた TODO リスト機能の試用

○濱田里羽（金沢大学）

部会 17 学生支援 (3)

学生アシスタント(QLA)を活用した授業運営において授業前研修の果たす役24. 割分析

○勝野喜以子（成蹊大学）、佐藤万知（京都大学）、宅島大堯（広島大学大学院）、樊怡舟（広島大学大学院）

組織開発に基づく新入生オリエンテーション 10 年間の実施成果 -長期間にわたって学内教職員からの理解と支持を得るためには-

○本田直也（大手前大学）、○川崎弘也（株式会社ラーニングバリュー）

学生が学生に「教える」際の演技に関する一考察 :学生発案型授業のチューデント・アシスタントを事例として

○石井和也（宇都宮大学）

学生チューターの業務報告メールの内容分析:効果的な研修プログラム構築に向けて

○加藤善子（信州大学）、○武田佳代（信州大学）

九州大学におけるティーチング・アシスタント(TA)制度改革・改善の取り組み -アンケート調査結果を踏まえて-

○長沼祥太郎（九州大学）、鄭漢模（九州大学、非会員）、野瀬健（九州大学、非会員）、丸野俊一（九州大学、非会員）

中国の大学における TA 育成と早稲田大学における取り組み

○蔣妍（早稲田大学）、馮菲（北京大学、非会員）、劉衛宇（上海交通大学、非会員）

部会 18 キャリア教育

インターンシップ科目は学生をどの程度成長させるのか——授業履修者に対する 3 時点にわたる質問紙調査による検証

○小山治（京都産業大学）

芸術大学の PBL 型授業における学生への動機づけと、受講した学生が感じた受講価値の把握 -学生が課題を自己決定出来る授業の効果検証-

○濱中倫秀（成安造形大学）、○三井規裕（関西学院大学）

学生アスリート向けインターンシッププログラムがキャリア意識に与える影響 -キャリア意識の発達に関する効果測定テスト(CAVT)を用いた受講生調査から-

京都産業大学教育支援研究開発センター（○松尾智晶、伊吹勇亮、松本翔悟）

リーダーシップ自己効力感にリフレクションが与える影響について -大学四年次と入社一年目の縦断調査から-

○武田佳子（桐蔭学園）、溝口侑（京都大学大学院）、溝上慎一（桐蔭横浜大学）

専門必修科目におけるキャリア教育の実践と効果

○本田周二（大妻女子大学）、堀洋元（大妻女子大学、非会員）、八城薫（大妻女子大学、非会員）

部会 19 大学運営

アメリカ 28 州の大学授業料無償化政策「プロミスプログラム」のねらいと影響

○宇田川拓雄（喜悅大学）

学部における教育情報の活用の現状と課題

○岡田有司（東京都立大学）、鳥居朋子（立命館大学）、村上正行（大阪大学）

大学職員の役割モデル再構築のための日・韓・台比較研究

○深野政之（大阪府立大学）

IR 担当者の専門性と執行部の期待：訪問調査に基づく類型化

○橋本智也（四天王寺大学）、白石哲也（山形大学）

クォーター開講科目の「セメスター的運用」をめぐる議論と課題—神戸大学の学事暦見直しを中心に—

○近田政博（神戸大学）

新潟大学における学位プログラムのガバナンス

○樋口健（新潟大学）、斎藤有吾（新潟大学）、小野和宏（新潟大学）、濱口哲（新潟大学、非会員）

部会 20 初年次教育（1）

初年次学生のアカデミック・スキルズへのニーズに関する研究—福島大学生を事例に—

○高森智嗣（福島大学）

大学生の認知段階と学習効果—認知段階を進める教育

○庄司善彦（兵庫県立大学）

学部学生の汎用的技能（ジェネリックスキル）の個人差および入学後の伸長度と関連する初年次要因の検討

○澤田忠幸（石川県立大学）

学生の現状と学びの意欲を活かした初年次教育カリキュラム策定にむけての取り組み—大正大学における学生の意識調査の報告を中心に—

○春日美穂（大正大学）、吉田俊弘（大正大学）、近藤裕子（山梨学院大学）、由井恭子（大正大学、非会員）、河田純一（大正大学大学院、非会員）

「議論の十字モデル」を用いた新たな議論分析手法の開発のための基礎研究—評価観点（レベル 3）の配置方式と有機的関係性に関する定義の妥当性について—

○坂本智香（高知大学）

建学の精神を伝える初年次教育科目の 3 年間の実践成果と課題—授業評価アンケートの自由記述の分析から—

○橋本健夫（長崎国際大学）、橋本優花里（長崎県立大学）

部会 21 初年次教育（2）

人文社会系学部における DP に基づいたルーブリック構築の試み

○白石哲也（山形大学）、有田亜希子（清泉女子大学、非会員）、福田健（清泉女子大学、非会員）、吉岡昌紀（清泉女子大学）

大阪大学における全学初年次教育「学問への扉」による学生の能力の自己評価

○村上正行（大阪大学）、安部有紀子（大阪大学）、和嶋雄一郎（大阪大学）、杉山清寛（大阪大学、非会員）、宇野勝博（大阪大学）

日本の私立大学からみる 1990 年代

○佐藤龍子（龍谷大学）

「論理的思考」がかならずしも歓迎されないのはなぜか？

○須長一幸（福岡大学）

音楽系学科カリキュラムの現況—大学属性・入試科目に着目して—

○栗原郁太（津田塾大学）

法学部教育の満足度を規定する要因

○坂巻文彩（九州大学大学院）

●2020 年度大学教育学会課題研究集会について

2020 年度課題研究集会 企画委員会・実行委員会

2020 年度大学教育学会課題研究集会は、11 月 28 日(土)から 11 月 29 日(日)の二日間、早稲田大学早稲田キャンパス(東京都新宿区西早稲田)において開催を予定しています。企画・実行両委員会での検討の結果、今回の課題研究集会の全体テーマを「今、学生支援で何を問うべきか： 廣中レポートの 20 年を踏まえて」(仮)として、基調講演および開催校シンポジウムを行うことにいたしました。

ご承知の通り、2000 年に公表された「大学における学生生活の充実方策について(報告)ー学生の立場に立った大学づくりを目指してー」、通称廣中レポートは、大学中心の学生支援から学生中心の学生支援への転換を迫る内容でした。一方、その後の大学教育改革を通じて、学生支援だけでなく、学生の学習の在り方の変容を踏まえた多様な支援が必要となってきたようにも思われます。特に学生の変容は新たな支援や考え方の転換を迫るものとなっているようです。廣中レポートからの 20 年で私たちはどこまで進み、これから何を考える必要があるのかについて確認する機会になれば幸いです。

二日目の「課題研究シンポジウム」は午前午後各 2 つが行われる予定です。また、初日午前には前年度同様「ポスター・セッション」を実施いたします。なお、従来は大会時に開催されておりました「ポストワークショップ」は、今回から課題研究集会終了後に実施することになりました。

【プログラム(案)】

<u>11 月 28 日(土)</u>	<u>大隈講堂、早稲田キャンパス3号館(予定)</u>
9:30	受付開始・ポスター準備
10:00 ~ 12:15	ポスター・セッション
12:15 ~ 13:00	昼食休憩
13:00 ~ 13:30	開会行事
13:40 ~ 15:00	基調講演 「学生支援・学生相談に関する 20 年の振り返り(仮)」 齋藤 憲司氏(東京工業大学教授・日本学生相談学会前理事長)
15:10 ~ 17:20	開催校シンポジウム 「今、学生支援で何を問うべきか： 廣中レポートの 20 年を踏まえて(仮)」 ①特別支援教育の観点から ②合理的配慮の観点から ③LGBT 支援の観点から ④留学生支援の観点から 等
17:40 ~ 19:10	情報交換会(現在の状況を踏まえ開催未定)
<u>11 月 29 日(日)</u>	<u>早稲田キャンパス3号館</u>
9:00	受付開始
9:30 ~ 12:00	【課題研究シンポジウムⅠ】 / 【課題研究シンポジウムⅡ】
12:00 ~ 13:00	昼食休憩
13:00 ~ 15:30	【課題研究シンポジウムⅢ】 / 【課題研究シンポジウムⅣ】
15:40 ~ 16:00	閉会行事
16:00 ~ 18:00	ポストワークショップ

【ポスター・セッションについて】

11月28日(土)10時から12時15分までの間、「ポスター・セッション」を実施いたします。この「ポスター・セッション」の発表資格や内容等は、大会の「自由研究」と同等とし、1発表につき、高さ180cm×幅90cmのパネルを用意する予定です。なお、予稿集に掲載する原稿を提出していただくことになります。申し込み等詳細は学会ウェブサイトでご案内いたしますので、ご確認ください。

- ・ 発表申込期間 : 2020年7月1日(水)～7月27日(月) ※一斉メール及び学会ウェブサイト内で案内
- ・ 発表可否通知 : 2020年9月上旬 ※発表可否通知メール送信
- ・ 発表要旨原稿提出締切 : 2020年9月28日(月)

【その他】

※ 事前参加申し込みにつきましては、昨年度とほぼ同様のスケジュールで、学会ウェブサイトからお申込みいただく予定です。新型コロナウイルスへの対応を踏まえた情報交換会の実施方式等、詳細につきましては、次号のニューズレターでお知らせいたします。

※ 早稲田周辺には飯田橋、池袋、新宿など近隣のホテルが多数利用可能です。宿泊につきましてはご自身で手配していただくことになりますので、ご承知おきください。

理事会便り

(理事会の詳細は、ウェブサイトの会員ページに掲載されています。)

● 新規課題研究の選定について

新規課題研究として1課題④が選定され、2020年度は4課題の課題研究が進められることになりました。

- ① 「学生の思考を鍛えるライティング教育の課題と展望 (研究代表者:井下千以子)」、研究期間:2018年4月～2021年3月
- ② 「アクティブラーニングを支援する学生アドバイザーの制度・研修・効果に関する実証的研究 (研究代表者:杉森公一)」、研究期間:2018年4月～2021年3月
- ③ 「学修成果アセスメント・ツール活用支援を通じたエキスパート・ジャッジメントの涵養と大学組織の変容 (研究代表者:深堀聡子)」、研究期間:2019年4月～2022年3月
- ④ 「大学教育における質的研究の可能性(研究代表者:山田嘉徳)」、研究期間:2020年4月～2023年3月

● 第15回大学教育学会奨励賞について

第15回(2019年度)大学教育学会奨励賞は、該当者なしの結果となりました。

● 2019年度会長特別賞について

細川敏幸、鈴木久男(共に、北海道大学)

受賞対象業績:電子書籍Kindle版「インテグレート科学:現代を生きるための科学力養成講座」

● 「JACUEセレクション2020」の認定候補について

「JACUEセレクション2020」として以下の4冊が認定候補となりました。所定の手続き後、正式に認定書籍として、学会ウェブサイトに掲載いたします。

- ① 藤本昌代・山内麻里・野田文香編著『欧州の教育・雇用制度と若者のキャリア形成—国境を超えた人材流動化と国際化への指針』2019年、(株)白桃書房
- ② 濱名 篤『学修成果への挑戦—地方大学からの教育改革』2018年、(株)東信堂
- ③ 山田礼子『2040年 大学教育の展望 —21世紀型学習成果をベースに』2019年、(株)東信堂
- ④ 関西国際大学編著『大学教学マネジメントの自律的構築 —主体的学びへの大学創造 20年史』2018年、(株)東信堂

＝事務局から＝

● 会費納入のお願い

2020年度迄の会費未納分を含めて会費請求書・郵便払込取扱票を同封しております。特に過年度分会費未納がある会員は、速やかにご入金ください。また、準備の都合上、既に納付済みの方にも請求書が送付される場合がございます。ご容赦いただき、請求書を破棄くださいますようお願いいたします。

納入は、下記オンライン決済をご利用いただけます。また、従来の郵便振替口座をご利用いただくことも可能です。

領収書につきましては、下記オンライン発行をご利用ください。

年会費等郵便振替口座 00210-9-102857 「一般社団法人大学教育学会」

また、銀行からのご入金を希望される場合は、

入金前に必ず、以下の**大学教育学会 学会業務取扱センター**までその旨ご連絡下さい。

【入退会・会員登録情報変更・会費納入状況についてのお問い合わせ先】

大学教育学会 学会業務取扱センター

〒170-0002 東京都豊島区巢鴨1丁目24-1-4F

TEL:03-5981-9824、 FAX:03-5981-9852

E-mail:g022lges-mng@ml.gakkai.ne.jp

過年度会費の滞納がある場合は、学会誌の発送を見送る措置をとらせていただいております。納入状況は、学会ウェブサイトの会員ページにあります「会員情報の照会・更新」からご自身で確認可能です。また、学会誌への投稿、大会及び課題研究集会での発表申込みは、申込時の当該年度分までの会費が納入済みであることが条件となっております。

● 年会費のクレジットカード決済のご案内

2018年度より、年会費のクレジットカードによるオンライン決済ができるようになっております。

同時に領収書のオンライン発行も可能となりましたので、ご利用ください。

大学教育学会ウェブサイト・トップページにある「年会費オンライン決済」のボタンをクリックし、「オンライン決済ログイン」もしくは「領収書発行ログイン」のどちらかを選択します。

<オンライン決済の場合>

- ① 会員情報管理認証画面に移行しますので、会員IDとパスワードを入力し、ログインします。
- ② オンライン会議決済のページに移り、会費請求額が示されますので、ご確認の上、決済金額をご入力ください。
* 過年度分の会費が未納になっている方は、「年会費請求額」および「決済金額」を確認してください。
* デフォルトで未納分を合算した請求額を決済金額としていますので、単年度のみ決済を希望される場合は、決済金額を変更してください。この場合、古い年度分から決済されます。
- ③ オンライン決済画面では、決済金額を確認し、クレジットカード情報を入力してください。
* クレジットカード情報等の決済内容は、決済代行会社へ送信されるだけで、大学教育学会のサーバーに蓄積されることはありません。また、決済代行会社への通信は、SSL暗号化通信により、通信の秘密は保持されます。
- ④ 未納の会費がない場合は、「未納の会費請求データが見つかりませんでした」と表示されます。

<領収書のオンライン発行の手順>

- ① 会員情報管理認証画面に移行しますので、会員IDとパスワードを入力し、ログインします。
- ② 会員情報管理メニューの「年度別に会費を照会する」のボタンをクリックします。
- ③ 年度ごとに納付状況が示されます。領収書の必要な年度の「領収書の発行」ボタンをクリックします。
- ④ 領収書発行の画面の指示に従ってください。

● 2020年度課題研究集会について

2020年度課題研究集会は、2020年11月28日(土)・29日(日)に早稲田大学早稲田キャンパス(東京都新宿区西早稲田1-6-1)にて開催されます。詳細につきましては今後メールマガジンやニュースレター等でご案内していきます。

● 学会関連資料のご寄贈のお願い

事務局ではアーカイブズの収集、保存にあたっております。

特に探求している資料は、以下の通りです。学会事務局まで「着払い」でお送りください。

大会発表要旨集録等(1979,1981,1989,1990,1993,1998,2000～2004年)

課題研究集会要旨集(1981,1982,1985～1989,1992,1993,1998,2001,2003～2005,2008年)

その他、一般教育学会時代の資料についてもご寄贈をお待ちしています。

アーカイブズのご利用については、事務局までご連絡ください。

● 2020年度(第16回)大学教育学会奨励賞の募集について

大学教育学会奨励賞は、大学教育および大学教育研究の発展を期して設けられました。

受賞対象者は本学会個人会員です。2020年度(第16回)は、第39第1号から第42巻第2号までの過去4年間の学会誌に掲載された論文が対象となります。応募は自薦・他薦を問いません。

① 提出書類 <自薦>論文、応募者の略歴及び業績一覧、応募理由(研究の意義・成果など1,000字以内) / <他薦>論文、推薦理由(研究の意義・成果など1,000字以内)

② 募集締切 2021年1月8日(金) 必着

③ 送付先 大学教育学会事務局

〒252-0231 神奈川県相模原市中央区相模原2-8-20-204

● 住所変更等会員情報更新のお願い

ご住所、ご所属や役職等に変更がある方は、速やかに、学会ウェブサイトの「会員ページ」にあります「会員情報の照会・更新」からご自身で変更をお願いいたします。ID(会員番号)・PWを紛失された方は、[大学教育学会 学会業務取扱センター](#)までお問い合わせください。

定期刊行物は、宅配業者のメール便を利用しているため、転居にともなう転送はされず数週間後、事務局へ返送されてまいります。何卒ご協力をお願いいたします。

● メールマガジンの受信設定のお願い

現在、会員の皆様に年数回、大学教育学会メール通信(メールマガジン)を配信しております。

しかし、受信拒否や宛先不明を理由に返送されてくるメールが多数あります。ご登録のアドレスにおいて学会アドレスjacue.office@gmail.comより送信されましたメールを受信できるよう設定をお願いいたします。

● オンライン検索サービスについて

従来の会員名簿に代わり、会員検索が可能なサービスです。個人会員、団体会員が利用可能です。検索対象は個人会員のみです。

情報検索項目(基本情報)は、【氏名】、【カナ】、【所属先】、【専門領域】の4項目で検索(部分検索)可能です。その他の項目の開示・非開示については、会員本人の選択項目になります。

こちらのサービスを利用される際にも、ID(会員番号)・PWの入力が必要になります。

● 訃報

本学会の運営と発展に尽くしてこられ、特に2006年～2009年に事務局長を務められた際には遠方から大学教育学会を支えていただきました小野滋男氏(北海道医療大学名誉教授)が、2020年2月25日にご逝去されました。ご生前に賜りましたご厚誼に感謝し、ここに謹んで哀悼の意を表します。



【学会事務局】

〒252-0231 神奈川県相模原市中央区相模原2-8-20-204

Tel/ Fax: 042-707-8112

E-mail: jacue.office@gmail.com

URL: <http://www.daigakuyoiku-gakkai.org/>

【入退会・会員登録情報変更・会費納入状況についてのお問い合わせ先】

大学教育学会 学会業務取扱センター

〒170-0002 東京都豊島区巣鴨1丁目24-1-4F

TEL: 03-5981-9824、

FAX: 03-5981-9852

E-mail: g022lges-mng@ml.gakkai.ne.jp